



よろこび

2019. 6.20 第121号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信



久世 そらち 牧師

初任地の旭川豊岡教会に着任した当時、90歳になる牧田健夫さんという教会員がいました。元中学校長で、また長く教会役員を務めた方です。この方が「隠退教師を支える運動」の提唱者でした。教団年金制度が発足して間もない頃、牧田さんは『教団新報』のある記事を目にしました。「ひとりの隠退教師が生活に窮し、教団に相談にきた。

「隠退教師を支える運動」提唱者の思い

日本基督教団 副議長

久世 そらち

しかし教団年金の受給対象にならないとの説明を受け、肩を落として帰っていった」との内容でした。これに心を痛めた牧田さんは、隠退教師を支えるため毎月1000円の献金を教会員に呼びかけます。それが道北地区壮年会で取り上げられ、北海教区内に広がり、ついに1978年の第20回教団総会の決議をもって教団全体の取り組みとなったのです。

牧田さんは若い頃、旭川豊岡教会の前身であるメソジスト旭川教会で三上豊牧師から洗礼を受けました。おりしも大正デモクラシーの風潮にのり、戦前の教会が最も盛んな時期でした。

三上豊牧師は1935年に再度旭川教会に赴任しますが、そのときには状況は一変していました。国を挙げて戦争に向かう時代、多くの信徒が教会を離れていったのです。「大戦の最中、特別な篤信家、老人、小児にあらざるかぎり教会に背を向け役員会どころではない。小生は4月早々会計を委嘱された。Y翁の遺言により毎月7円を領収、若干を足して牧師館にお届けするのみであった」と牧田さんは振り返っています。「筆者も役員とは名のみで、皇民教育の練成に務め、あまり教会を顧みなかった。しかし牧者は教会の空地に蔬菜（そさい）を作りながら、常に温顔をたた

え会員宅を訪ねた。役員を訪ねて運営を議し、一方中央の要請に応えるなど、方途を尽くして牧会にあたられた」。

戦中戦後の困難に耐えた三上牧師は、敗戦から1年半後の1947年1月、牧師館で亡くなります。栄養失調の診断でしたが、ありていに言っただけで餓死というべきありません。ただたとえられています。

枕元に駆けつけた牧田さんは痛恨の涙を流しました。役員にありながら、教会をないがしろにし恩師を死なせてしまったことは、牧田さんの心に棘となって残りました。

「当時を振り返ってみる時、吾人の信仰生活も一朝戦争有事の内ともなれば、たちまちにして崩壊するもろさであった」と牧田さんは記しています。

その後、牧田さんは私財を投じて教会の中に「三上記念会」という基金を設けて三上牧師遺族を支え、さらに先述の『教団新報』の記事をきっかけに「隠退教師を支える運

動」を提唱しました。「これは私の戦争責任告白です」とおっしゃっていたといえます。

私が旭川豊岡教会に赴任した翌年、牧田健夫さんは信仰の生涯を全うして天に召されました。「隠退教師を支える運動」は多くの働き手に受け継がれ、今日まで教団内の大切な運動として展開されてきています。当初は教団年金を受給できない方がたを支えることを目的としていましたが、

今日ではその目的を広げ、年金掛金・「謝恩日献金」とならんで教団年金制度そのものを支える大きな力となっています。ひとりの牧者の苦難と死、そしてその痛みを負い続けた信徒の思いが、いま不思議にも教団全体に活かされています。私も、牧田さんから最後のバトンを手渡された者として、

教会の痛みの歴史の中を歩んだ提唱者の思いを語り継ぐ務めを担わされているのです。

(くぜ そらち)

北海・札幌北部教会牧師

ついでに

この3年間で、年金局の職員が一新いたしましたので、「隠退教師を支える運動」推進委員会事務局と合わせて、ここで改めてご挨拶させていただきます。

年金局

村山めぐみ(業務室長)

業務全般や理事会などの責任を負っています。奥深く、苦戦の日々ですが、もうしばらく暖かく見守ってください。

本田由紀子

教区・教会に向けた業務を担当しています。ご不明な点がございましたら、いつでもお電話ください。

福島 聡子

受給者・ご遺族に向けた業務と編集を担当しています。皆さまを大切に思っ

ています。

「隠退教師を支える運動」推進委員会事務局

鈴木 秀信(事務局長)

支える運動推進委員、事務局の責任を併せ担っています。主のお支えをいただき、感謝のうちに仕えてまいります。

若島 千絵

事務全般を担当しています。ご献金くださる方がたの祈りに励まされ、祈りつつ業務に取り組んでいます。

「謝恩日献金」は年金局、

「支える運動」100円献金は推進事務局で取りまとめられています。窓口は異なりますが、皆さまの尊厳を大切に扱わせていただくために、経費削減に努め、支え合って業務にあたってまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

「隠退教師を支える運動・1000円献金」

「隠退教師を支える運動」へ、 いま一層のご支援を

推進委員長 池田 浩二

2019年4月10日に開催された第41総会期第1回推進委員会において、図らずも推進委員長に選任され、その責任の重さを痛感するとともに、ただ神さまの導きとお支えを祈り、関係の皆さまのご協力をお願いするばかりです。

前任の森啓一委員長は、2009年1月の第36総会期第1回推進委員会から事務局長として、2012年1月の第38総会期第1回推進委員会からは推進委員長として、今日までこの運動の発足以来の良き伝統を受け継ぎ、その歩みを指導してきてくださいました。しかし残念ながら健康上の理由などから辞意を表明され、推進委員会は、事情止む

を得ないものと承認に至りました。森前委員長の後任が私では、同年輩で「世代交代」にはなりません。ピンチヒッターとして、先輩の方がたが築いてこられた過去の良き伝統の歩みを絶やすことなく、年金局と力を合わせて引き続きいでいかなければならないと思っています。

しかし、この道は決して安易な道ではありません。少子高齢化の波は何処の教会にも、教団全体にも押し寄せて来ています。その各教会の財政も厳しい状況の中で、懸命に主の十字架を仰ぎつつ、奉仕さ

りも、自らの信仰の原点を思い返し、信仰に導いていただいた先生方の老後のご生活が少しでも、より祝福に満たされますよう、今一層献金運動

に励んでいきたいと思えます。主の導きと、皆さまのご協力をお願いいたします。

(いけだ こうじ)
東京・霊南坂教会員

隠退教師の生活を支えるために
献金のご協力をお願いします

教団年金

加入者 2,067名 / 受給者(教師・遺族) 757名 (2018年度)

教団年金は隠退された教師および現職教師の隠退後の生活にわたる生活の安定のために公的年金を補う制度として作られました。教団のすべての教師が加入します。



100円献金



掛金



謝恩日献金



年金支給額、掛金額の推移 (1997-2015)

退 隠年金の誕生は1964年、積立金ゼロでのスタートで、掛金と年金等で運営されてきました。現在から30年経ると1998年とうとう掛金額より年金給付額が多くなる事態となり、その状態は年々拡大してきました。この差を補うために(隠退教師を支える運動・100円献金)や11月最後の曜日「謝恩日」を覚えて(謝恩日献金)をお願いしております。

献金教会数 (2018年度)

56%

100円献金

59%

謝恩日献金

〒お問合せ： 日本基督教団年金部 TEL. 03(3202)2080 / 「隠退教師を支える運動」推進委員会 TEL. 03(3202)2081

業務室より

— 年金を受けている方へ — 年金送付のお知らせ

7月の定例送金のご案内をします。

送金内容

①謝恩金受給者

2019年度第2期分給付額
(2019年7, 8, 9月分)

②退職年金受給者

2019年度第1期分給付額
(2019年4, 5, 6月分)

送金日 2019年7月10日(水)

期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。

次回送金 2019年10月10日(木)

住所・年金振込先の変更は、できる限り早急に書状、FAX、メールで年金局にお知らせください。

☆ 2018年度年金局事業・決算報告がまとまり、5月7日年金局監事による監査を受けました。この報告は年金局理事会、教団常議員会で承認後、秋の『教団新報・年金特集』に掲載いたしますので、今回は概要のみお伝えいたします。2018年度は約735名の隠退教師・ご遺族に総額4億5,198万円の年金を支給いたしました。一方掛金収入は3億2,156万円です。その差1億3,042万円は「謝恩日献金」、「隠退教師を支える運動・100円献金」、資産運用益等で補われています。「謝恩日献金」の総額は4,158万円で969教会から献げられました。また「隠退教師を支える運動・100円献金」は6,608万円が921教会から献げられました。全国

の教会・伝道所の皆さまが祈り献げてくださるこれらの献金は、教団教師退職年金制度が健全に継続される大きな財力です。資産運用益は、変化の激しい運用環境でしたが、目標の110%、5,072万円を計上することができました。「支える運動」からの多額の繰入金、教区協力金、教団からの繰入金、特別献金などのおかげで、2018年度の収支差額3,059万円は積立金に繰り入れられ、退職年金積立金は42億8,517万円となりました。

☆この春隠退され、教団年金受給者となられた方は現時点で25名、再隠退された方は4名です。

☆12年間業務室長を務めてこられた櫻井淳子さんに代わり、4月より年金局の業務の働きに加えていただくこととなりました。村山めぐみです。永い間、牧会伝道にお仕えくださった先生方、そのご遺族の方がたの隠退後の毎日を少しでもお支えし、また現役教師として働かれている先生方の将来の励みとなる教団年金の存在の大切さと、その重責を日々感じております。前職はまったく異なる業種であり、不慣れなためにご迷惑をおかけすることが多いかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。これから暑さ厳しい季節に向かいます。皆さまのご健康が支えられ、主のお守りのうちに過ごされますようお祈りしております。

(村山めぐみ)

日本基督教団年金局 「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
年金局 Tel: 03 (3202) 2080
Fax: 03 (3202) 2081
mail: nenkin@clock.ocn.ne.jp
支える運動 Tel: 03 (3202) 2081 (Fax 兼用)
mail: sasae@flute.ocn.ne.jp